

2015～2016年度

No. 2510 (07) 2015年9月1日

国際ロータリー会長 K.R. ラビンドラン

国際ロータリー
第2790地区ガバナー 櫻 木 英 一 郎

第5分区ガバナー補佐 吉 岡 諭 史

鴨川ロータリークラブ

会 長 脇 坂 保 雄

副 会 長 小 篠 隆

幹 事 小 高 由 加 里

会 報 古 市 一 雄



=今週のプログラム=

9月 1日 クラブフォーラム

=次週のプログラム=

9月 8日 講師卓話

例会日 (火) 12:30～13:30
例会場 鴨川シーワールドホテル

事務所 〒296-0001 鴨川市横渚697 伊藤胃腸科クリニック内
URL <http://www.kamogawa-rc.com> TEL・FAX 04-7093-2001

第6回 例会 報告

日時：平成27年8月25日 12:30～
(例会場：鴨川ホテル三日月)

- | | | | |
|--------------------------|---------|----------------|---------|
| 1、点 鐘 | 会長 脇坂保雄 | 6、RYLA委嘱状伝達 | 会長 脇坂保雄 |
| 2、ロータリーソング斉唱「それでこそロータリー」 | | 羽鳥鋭一会員・小篠 隆会員へ | |
| 3、会長挨拶 | 会長 脇坂保雄 | 7、ニコニコタイム | |
| 4、幹事報告 幹事代理会長エレクト 倉島圭子 | | 8、出席報告 | |
| 5、会員卓話 松村豪一会員 | | 9、点 鐘 | 会長 脇坂保雄 |
- 命が輝き出すとき－クリスチャン医師の行き方－

会長挨拶

会長 脇坂保雄



皆さん こんにちは

昨夜は、20年に一度の天津神明宮の鳥居木曳祭の曳納めを見学しました。私は伊勢神宮の式年遷宮にも参加しましたが、房州伊勢の宮といわれる天津神明宮の神事の素晴らしさに感動しました。

さて、本日の例会では、松村ひでかつ会員の卓話をお願いしました。過日、「生命が輝き出すとき」－クリスチャン医師の生き方－という題名の松村会員の自信をたまわりましたので、読ませていただきました。

満州からの引き揚げに始まり、アメリカ留学、医師としてクリスチャンとしての生き方は、皆さんの共感を得るものと思います。例会内では語りつくせない内容とは存じますが、これをもちまして会長の挨拶とし、先生の時間を少しでも長くしたいと存じますので、よろしくお願い致します。

* 幹事報告… 幹事代理会長エレクト 倉島圭子

1. 鴨川市国際交流協会より、「マニトワック市婦国報告会」案内がありました。
2. ロータリー財団への寄付御礼メールがありました。
3. 文理開成高等学校校誌 ロータリー例会卓話の記事報告。
4. 鴨川市納涼花火大会実行委員会より協賛の御礼状が届きました。
5. 9月1日・8日の例会会場が三日月に変更となります。
(車の場合は、ホテル内の駐車場を使用願います。)
6. 千倉ロータリーより8月28日例会休会とのことです。



* 会員卓話

命が輝き出すとき

ークリスチャン医師の行き方ー

松村 豪 一 会 員

会員卓話として、村松豪一会員に「命が輝き出すときークリスチャン医師の生き方ー」と題して、お話をいただきました。パワーポイントを用いて自身の生き方について詳しくお話をいただき感銘を受けました。詳細は、省略しますが、同名の本の紹介と「あとがき」の部分を掲載しましたので参考としてください。



今から47年前の1962（昭和37）年3月、長崎大学医学部専門課程1学年の最終授業の特別講義で東京大学精神神経内科の沖中重雄教授が講義を終了する直前に、「諸君はこれから大勢の患者を診ることになるであろうが、その時に医学における最高の教科書は、諸君の眼前にいる患者である。このことを決して忘れてはならない」と言われました。臨床経験を積むにつれて、これが本当に大切な言葉であると理解できました。沖中先生のこの言葉の背後に、患者さんには常に謙虚な態度で接し、同じ視線で向かい合い相手の言葉に耳を傾けると、思いがけないことを教えられるという意味があったことは、その後の体験で私自身実感したことでした。沖中先生の言葉は私の座右の銘となっています。

今まで過ごしてきた73年間の軌跡を振り返ってみると、病人や健康者を問わず身体の疾病や障がいはもちろんのことですが、不幸、試練などによる心の痛みやたましいの苦悩など人の内面に焦点を当て、どのようにそうした人々に慰めや励ましを与えたらよいかを

考えてきたように思います。言い換えれば、私の人生は人の命の尊さを探り、そのことを求めて歩んできたものであったような気がします。

もしも1945（昭和20）年の終戦前後の混乱の中で命を失っていたら、当然その後の私の人生はないわけです。けれども、この73年間の歩みを振り返るときに、自分の命が危なかったと感じたことが何度もありました。これまで生き延びられたのは、確かに守られてきたということを実感しています。「人間の命は、主の手の中にある」という言葉は私にとって真実です。これから先、何年生きられるかわかりませんが、己のたましいの成長にさらに時間を割きたいと思っています。残された人生を悔いのない、生きがいのある生き方をしたいと願っています。

最後になりますが、家内の内助の功に対する感謝の気持ちは言葉にならないほどであり、家族（長女・聖架と長男・信活）の慰めと励ましを深く感謝していることを述べておきたいと思います。

本書が、読者の内なる人を高め、深め、広めるために少しでもお役に立てれば、これにすぐる喜びはありません。

2010年1月15日発行

「命が輝き出すとき」著者 村松豪一

発行社 東京都中野区 いのちのことば社



* RYLA委嘱状伝達



脇坂会長から羽鳥鋭一会員・小篠 隆会員へ

* ニコニコボックス

氏 名	メ ッ セ ー ジ	氏 名	メ ッ セ ー ジ
羽 鳥 鋭 一	RYLA委嘱状	武 田 将次郎	マレーシアなどへトップセールス

* 出席報告 出席免除会員 …… 4名

例 会 日	会 員 総 数	出 席	M . U	出 席 率 (%)
8 月 18 日	34	28	3	91.18 %
8 月 25 日	34	22	5	79.41 %